福岡県小学校
校　長　会　報

志とわ（和・輪・環）

福岡県小学校長会　会長　松　本　　剛
（古賀市立古賀東小学校長）

令和七年度福岡県小学校長会の会長を拝命しました古賀市立古賀東小学校の松本剛と申します。どうぞよろしくお願いします。

本年度、私が大事にしたいことは三つです。

一つは、十月十六、十七日に迫った全国連合小学校長会研究協議会福岡大会を会員一丸となって成功に導くことです。二つは、目の前の教育課題の解決に向けて県小学校長会としての動きを充実させることです。そして三つは、持続可能な県小学校長会となるよう、運営、内容等の改善を推進することです。

このことをふまえ、県小学校長会活動の理念として「志とわ（和・輪・環）」を設定しました。

志とはだれかのため、何かのために、という利他の心に基づく主体的創造的な働きかけです。

和には、「偏った見方にこだわらず、互いに和らぎをもって話し合えば、自然に道理にかなう合意を得る」という意味を込めています。この和を基盤として、県小学校長会と連携して活動する諸団体とのいわば横のつながりが輪。これまで先輩方が積み重ねてこられた取組や思いを受け継いでいく縦のつながりが環です。

様々な課題に正対している今だからこそ、私たちには郡市、地区、県域や政令市、行政やＰＴＡ、中学校長会や教頭会とのつながりが必要です。志をもって、協議を通して最適解を見いだしながら学校経営をすすめていく。そのことが教職員のやりがいと手応え、ひいては子どもたちの笑顔につながると考えています。

具体的な取組として、本年度は特に次のことに力を注ぎます。

一つは、学校経営の充実に向けた働きかけです。

県小学校長会の研究主題であり全国大会の副主題でもある「志をもち　多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」に基づく実践の学びを、自身の学校経営に生かせる研修の場となるようその充実を図ります。

二つは、県小学校長会組織の活性化と活動の充実です。

調査研究部が実施するアンケート調査は、国や県の要望活動における資料として活用するとともに、各郡市、各学校の取組に生かしていただけるよう働きかけます。

本年度は、地区会長会に持続可能な県小学校長会活動とするための課題と具体的な改善策の協議を位置付けました。対策部は、例年の活動に加え、この会議の運営にも取り組みます。

広報部は、「会員の皆様が開きたくなるホームページ」となるよう、今年度は利便性を高めます。例えば研修の要項等すぐに確認したい内容は、ワンクリックでアクセスできるようにします。

三つは、効率的で効果的な小学校長会活動とするための運営の工夫です。

昨年度の実績をふまえながら、各研修や会議の内容・状況に応じて、対面、オンライン、ハイブリット及び紙面開催の方法を活用しながら、私たちの学び合いの場を最適化していきます。

本年度、どうぞよろしくお願いします。

発行人　福岡県小学校長会
会長　松　本　　剛

事務局　〒812-0053　福岡市東区箱崎２丁目52番１号
福岡リーセントホテル１階
TEL (092) 292－2292　　FAX (092) 292－2294

退任副会長挨拶

副会長退任にあたって

前副会長（福岡地区）西村眞輝

令和六年度福岡県小学校長会の廣渡一郎会長は、スローガンを「志と環」とご提示されました。環境や価値観の急激な変化の中で、不易と流行を踏まえつつ、より高みを目指す「志」という言葉、そして希薄になりがちな「人・もの・こと」とのつながりを保ち続ける「環」という言葉が示されたことに、大きな感銘を受けました。副会長として、この「志と環」という理念の浸透を願い、邁進した一年でした。省みるとその不十分さを恥じるばかりですが、同じ目標に向かい他の役員や事務局の皆様と共に歩めたことは、私の人生の糧となる貴重な体験であったといえます。

副会長という役職であれば、やはり学校を出ての業務も増えてきますが、苦にすることなく充実感を得られたのは、それぞれの事業が成功裏に終わったからだと思います。

六月には二年次研修会で、他地区校長の価値ある実践を拝聴しました。三年目の方が素晴らしい学校経営をなさっていることを目の当たりにし、大きな刺激を受けるとともに、強い焦りも感じました。

また、十一月には県ＰＴＡ役員の方々と協議会や懇親会に臨みました。県下の広い範囲でご活躍の皆様との対話は、私自身の見方や考え方を広げ深める良い機会となりました。また、飲食を共にしながら語り合うよさを、改めて感じた一日となりました。

以前、事務局の一人として運営に関わらせていただいた私にとって、今回のご縁は大変ありがたく、大きな喜びを感じています。副会長を仰せつかったからこそ得ることができた知見を生かし、今後も精進を続けて参る所存です。

副会長退任にあたって

前副会長（北筑後地区）畑公政

この度の退任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、ご指導いただきました県小学校長会事務局並びに事務所の皆様、支えてくださった各地区の校長先生方には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

この役を務めるにあたり、当初不安はありましたが、研修会を重ねるごとに、先達の思いや同輩の動きに強い刺激を受け、むしろ素敵な機会になったと感じています。廣渡会長をはじめ事務局の皆様が、多忙な県内の連絡調整等に加え、令和七年度の全国連合小学校長会研究協議会福岡大会にむけ、尽力されていることを知り、微力ながらもそこに関わりを持てたのは幸いでした。

北筑後地区小学校長会長としても、学びの機会を頂きました。一月に行った南北筑後地区小学校校長会郡市会長・研究部長合同研修会では、福岡教育大学森教授の講話を拝聴しました。ここでも改めて考えさせられるものがありました。十数年も先輩でいらっしゃる森先生は、「今でも授業したくてたまらない。楽しいでしょ。」「子どもが変わるのがうれしい。いろいろ苦労しても清々しい。」と仰いました。まさに、自分が教師として生きてきた時間を振り返ることとなりました。役職定年の年にあって、こうした話を伝えるまでに至らない自らの未熟さを感じながらも、役割を賜ったからこそ得るものは大きかったと考える次第です。

最後になりますが、今後の福岡県小学校長会の充実と益々の発展、併せて令和七年度の全国大会の成功を祈念しまして退任の挨拶とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

副会長退任にあたって

前副会長（南筑後地区）大淵広顕

令和六年度、南筑後地区小学校長会長、県小学校長会副会長の任を賜りました。

振り返れば、昨年四月八日、第一回地区会長研修会に出席させていただきました。この時、まず驚いたのが、事務所会議室の壁面いっぱいに掲示された七年度の全国連合小学校長会研究協議会福岡大会に向けた綿密な計画表でした。更に、廣渡会長から六年度のスローガンである「志」と「環（わ）」の説明と、全国連合小学校長会研究協議会福岡大会に向けてオール福岡で取り組むことを熱く語っていただきました。この日、役員の方々の話を伺いながら、大会にかける事務局の皆様方の熱意や意気込みと、自分自身の副会長及び地区会長としての責務を強く感じました。

八月に福岡地区で実施された福岡県小学校長会研究大会は、ハイブリッド形式で開催され、

各地区の校長先生方の学校経営や人財育成、学力向上の方策等の取組が、大変よく伝わりました。また、研究大会への参加方法を工夫していただいたことは、これからの研究大会の在り方を考える上で大変価値のある県大会だと思いました。

十月には、徳島で開催された第七十六回全国連合小学校長会研究協議会に参加させていただきました。文部科学省の方の講話、全国の校長先生方との分科会での協議や情報交換から、これからの学校教育について、新たな視野を拡げる学びの機会となりました。

最後に、廣渡会長をはじめ、運営の中核となっていただいた事務局の皆様方、多くの研修会で交流を深め、学ばせていただいたすべての校長先生方に感謝申し上げます。福岡県小学校長会が、全国連合小学校長会研究協議会福岡大会に向けて力を結集し、より一層発展していくことを祈念いたします。

副会長退任にあたって

前副会長（筑豊地区）　**芳　野　浩　司**

令和六年度、筑豊地区小学校長会長、福岡県小学校長会副会長の役職を務めさせていただきました。退任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずは、廣渡会長をはじめ事務局の皆様には、様々な面でお力を貸していただき、心よりお礼を申し上げます。

さて、学校を取り巻く状況は、大きく変化し、私たち校長に課せられた責務も年々重さを増しています。そうした現状を踏まえて、後輩の校長先生方に、特に大切にしていただきたいことを期待を込めて二つお伝えします。

一つは、「自ら学び続けること」です。後輩の校長先生方は、今後益々、正解のない問題に正対し、自分なりの最適解を導き出していかなければなりません。常に危機感や問題意識を持ち続けておく必要があります。そして、自分の中に判断する際の選択肢を増やしておくことが求められます。そのためには、自ら学び続け考え続けることが大切です。ぜひ、その後ろ姿を、後に続く校長先生方のモデルとして示してください。

二つは、「できる限り在校しておくこと」です。校長の仕事は、大きく言うと危機管理と人材育成だと考えます。どちらも、校長が自校にいてこそ着実に進められます。「出張ばかりで学校にいられない」という声をよく聞きますが、自分自身の優先順位がはっきりしていれば、在校できるように働きかけることも可能なはずです。

最後になりますが、今後の福岡県小学校長会の充実・発展と県下の校長先生方のご活躍を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

副会長退任にあたって

前副会長（北九州地区）　**中　西　靖　彦**

令和六年度、北九州地区小学校長会長の役職とともに、福岡県小学校長会副会長の役職を務めさせていただきました。

五月には、全国連合小学校長会総会・研修会に参加させていただき、植村洋司会長から本会の活動の価値や意義について拝聴する機会がありました。その中に、「校長として大事なことは、教職員が『働きやすさ』と『働き甲斐』を実感し、気持ちよく働けるようにすることです。」と、ありました。

このことは、「教員不足」と「働き方改革」が叫ばれ始めた頃から、私自身も感じており、自校の学校経営を進める上で重点化して取り組んできていたので、語り掛けるお言葉一つ一つが心の奥底に深く入ってきました。

子どもたちにとっての魅力ある学校であるとともに、教職員にとっても魅力ある学校づくりを推進していこうという覚悟を、より一層強めたことを覚えています。

他にも、県小学校長会の諸会議に参加させていただく中で、様々な出会いを経験させていただいたうえに、廣渡一郎会長をはじめ、各地区会長及び事務局の皆様にたくさんのご指導・ご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、今後の福岡県小学校長会の益々の充実と発展、そして七年度に控える第七十七回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会の盛会を祈念いたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

副会長退任にあたって

前副会長（京築地区）　**後小路　揚　盛**

令和六年度、京築地区の小学校長会長と同時に、副会長として県小学校長会に関わらせてい

ただいて、多くのことを学び、改めて校長としての責務の大きさを認識する一年でした。

地区会長会や郡市会長会、県ＰＴＡ連合会との交流会等に出席させていただいたことにより、県校長会の運営や活動内容を知ったり、各地区の取組やＰＴＡ活動の現状を把握したりすることができました。また、県副会長という立場で参加させていただいた学力向上検証改善委員会では、学力向上に関する諸施策の策定について提言するために、各地区の校長先生方と協議をさせていただきました。実践をもとに、多様な学び方を通して個性を尊重しながら、支え合い、相互に認め合える社会の実現を目指す学校の取組を交流できたことは、今後の学校運営に大変参考になるものでした。

令和七年度、福岡県で開催される全国連合小学校長会研究協議会福岡大会についても着実に準備が整えられています。私も大会に向けて組織された拡大事務局会議に関わらせていただきましたが、当初は予想を遥かに超える膨大な準備業務に圧倒されるばかりでした。それでも、廣渡会長をはじめ、事務局幹事会が中心となり、各部会の校長先生方が事前の打ち合わせや資料の作成等、多くの時間を使って会議を運営されていることは、畏敬の念に堪えません。大会副主題であります「志をもち、多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」ができるよう、本年度の貴重な学びを生かし、自身の任務にしっかりと向き合って参りたいと思います。

一年間ありがとうございました。

特集

新任校長として

「今日学校に来てよかった」「明日もがんばろう」と思える立花小学校をめざして

新宮町立立花小学校長　**松　本　美紀子**

立花小学校は、福岡市の隣町、糟屋郡新宮町にあり、明治六年三月に創立され、本年度で百五十三年目を迎える歴史と伝統を誇る学校です。現在、全校百三十五名、全学年単学級の小規模校です。

福岡市近郊の山として有名な立花山の中腹にあり、広い校区の中で一番標高が高い場所（六十七、四メートル）に位置しています。校区には、長い間伝統として受け継がれてきた行事や地域の歴史を物語る史跡が数多く存在します。保護者を始め地域の方々は学校教育に対する関心が高く、日頃からさまざまな形で協力してくださっています。

私が目指す学校経営は、「ふるさとを愛し、未来をたくましく生きる立花っ子の育成」という本校の教育目標を実現するために、児童、教職員、保護者、地域全ての人々が、「今日学校に来てよかった」「明日もがんばろう」と思える、明るく前向きな学校づくりです。

そのために取り組んでいきたいことは、次の三点です。

○学ぶ意義や喜びを感じることができる授業づくり

子どもたちが学校で過ごす時間で一番長いのは授業です。「わかった」「できた」「もっと知りたい」「学ぶって楽しい」と感じられるような、学びの場をつくっていきたいと思います。そのために、糟屋地区小学校教頭会で以前作成された「学びのきほん」をもとに、学習規律や各教科の学び方の基本を今一度確認し、全教職員で共通の教育観をもち、指導力を高めていきたいと思います。また、授業づくりの基本である「めあて」と「まとめ」、「振り返り」のある授業を徹底して行い、子どもが自分の学びを実感できるよう支援していきます。

○教師自身が範となる文化と風通しのよい職場づくり

「時を守り、場を清め、礼を尽くす」「師弟同行」「率先垂範」。尊敬する校長先生が大切にされていた言葉です。この言葉のように、教師自らが「見せたい大人の姿」として行動し、子どもの規範意識を育てていきたいと思います。また、あいさつと整理整頓を心がけ、心と環境が整った働きがいのある職場づくりに努めていきたいと思います。

○地域とともにある信頼される学校づくり

立花小学校は、地域に見守られ、支えられてきた学校です。先日行われた運動会では、朝早くから、たくさんの保護者や卒業生、地域の方

【運動会ＣＳ競技　新宮音頭３】

が雨上がりのグラウンドの整備や万国旗の取り付け、用具係などを行ってくださり、予定通り全種目を無事に実施することができました。地域に支えられていることを実感した一日でした。

立花小学校では、子どもたちを支えてくださっている地域の方と学校、そして地域の方同士がつながる機会として、地域全体交流会を実施しています。教師と地域、地域と地域が顔を合わせ、子どものためにできることを語り合う場です。地域の方々と一体となって教育活動を行うことで、信頼される学校づくりができると考えます。

立花小学校の強みは、「人と人とのつながりの深さ」にあります。小規模校だからこそできる、きめ細やかな教育、子どもたち一人一人に目が届く安心感、そして地域とのあたたかいつながり。これらを最大限に生かしながら、「ふるさとを愛し、未来をたくましく生きる立花っ子」の育成に全力で取り組んでまいります。「今日、学校に来てよかった。」「明日もがんばろう。」そんな声があふれる立花小学校を、築いていきたいと思います。

青木の宝が輝く学校づくりをめざして

久留米市立青木小学校長　**田　中　幸　恵**

「先生、ゆび相撲しよう。」

小学校に赴任した初日、学童に来ていた小四の子が笑顔で声をかけてきました。「小学校ってどんなところだろう。」不安の中にもワクワクした思いでいた中、この言葉で幸先の良いスタートをきることができました。

私はこれまでの勤務校で年度始めに必ずやってきたことがあります。それは「私を知ってもらう」ことです。昨今いろいろな場で「チーム〇〇」という言葉を多く聞くようになってきました。同じ学校になったからチーム〇〇と、そんな簡単にチームができるわけではありません。メンバーみんなが、チームにはどんな人がいて、その人は何が得意なのか、困っていることはないか、自分がフォローできるところはないか、そんな様々なことをしっかりと把握し、適材適所でその力を発揮できてこその「チーム〇〇」です。校長として、「R７チーム青木」の創部です。どんなチームをつくることができるのか、最初が肝心です。初日、全職員で自己紹介や自分の体調、家庭環境等みんなに知っておいてもらいたいことを話し、共有し助け合うことを確認していきました。

【歓迎遠足　青木の宝せいぞろい】

次に、子どもたちについてです。始業式にはみんな頑張りたいという思いをもって登校してきます。その思いを大事にするために、子どもたちの抱える課題を共有しました。当たり前ではありますが、子どもたちに対しての言葉かけは「～してはダメです」という禁止語ではなく、「～しましょう」と前向きになる促しの言葉を使っていくことも確認し合いました。

子どもたちと生活していると、「安心感」という心の置き場が成長に大きく影響していると改めて実感しています。先生は私のことを受け入れてくれるのか、私のことを思って勉強を教えてくれたり、間違えている時には気付かせ正そうとしてくれたりしているのかです。安心できると次に信頼が生まれ、先生を好きになります。学力も自己肯定感も人を大事にする気持ちも「安心感」なくして育たないと子どもたちを見ていて感じる日々です。だからこそ、私たち「先生」自身が心を耕し、ふわふわの栄養たっぷりな土となり、一人ひとりの種を包み、輝く人に成長させていく重大な役割を担っていることを認識しなければなりません。その為には、まず先生方に私を知ってもらい「安心感」を抱いてもらうこと、夢を語り合える信頼関係、支え合う職場環境をつくることが、学校づくりの原点だと思っています。

小学校では、小一から小六までの子どもたち全員がわかる言葉で話をするということが、中学校に比べてより必要となります。初めての私にたくさんの先輩校長先生方からアドバイスをいただいたり、参考にどうぞと自分が作られた文章を送ってくださったりと、本当にありがたいご支援をいただきました。これも「チーム校長」です。新米で異校種からきた私を思い浮かべ、どうフォローしていこうかと考えて動かれる先輩方。

恩返しは、これからもっと青木の宝（子も全教職員も）が輝く学校をつくっていくことだと心に刻んでいます。

「地域と共にある 矢部清流学園を目指して」

八女市立矢部清流学園校長　古村里香

矢部村は、大分県、熊本県に接する福岡県の最東南端に位置し、福岡県最高峰の釈迦岳、第二の高峰御前岳等、四方を陵険な山岳に囲まれ、桜や、紅葉や雪景色と四季折々の自然が美しい村です。矢部清流学園は、八女市で二番目の義務教育学校開設校であり、今年度六年目を迎えます。一年生から九年生の全校児童生徒四十九名と小規模校の学校です。

学校教育目標は、「ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な心と体をもち、共に伸びる児童生徒の育成～学校家庭地域をつなぐ『総がかりの教育』～」です。本校の特色は、「地域と共にある学校」です。学校運営協議会と、地域学校協働活動が両輪となって、学校・家庭・地域の連携・協働体制の充実や、学びと活動の好循環を促す多様な学習機会の充実を図っています。

【義務教育学校　八女市立矢部清流学園】

体験活動では、矢部村のもの・人・ことを生かした摘茶体験、原木椎茸栽培や販売、林業体験、大杣自然塾体験活動（矢部川探検・釈迦岳登山）、矢部村PR活動等を行っています。

また、地域との協働活動として、浮立伝承活動、白馬の媛、公卿唄などの郷土の歴史や文化について地域の方から学んでいます。学校の教育活動への協力や愛情ある支援に恵まれており、本校の子ども達は「矢部の宝」として、地域の方からも、一人一人大事に育てられています。

主な学校行事では、全校児童生徒と職員で新一年生を迎える入学式。卒業式も全校児童生徒が出席し、九年生との涙のお別れをします。九年生は、ステージ上で一人一人夢を宣言して、上級学校へ進学していきます。

秋には、矢部村・矢部清流学園合同体育祭を実施しています。昨年度から保育園も加わり、爽やかな秋空の下、幼児から高齢の方までが参加する矢部村オリジナルの体育祭です。矢部清流学園の児童生徒は、競技や係活動等で活躍する姿を村の方々に応援してもらいます。

このように、本校は地域と共にあるとても幸せな学校です。私は、教頭で開校二年目【創設期】から二年間本校で勤務し、他校に異動した後、本年度、校長として再度赴任しました。私のミッションは「矢部清流学園六年目」【改革期】を担っていると思っています。経営方針や努力事項の見直しをはじめ、前期課程職員、後期課程職員ではなく、義務教育学校ならではのハイブリット職員としての人材育成や、教育課程の編成の組み直し等、再度赴任したから見える課題等に組織的に対応することです。そして、すぐに改善できることはスピード感を持って改善し、大きな改革については、学校・家庭・地域へ見直し・改善していく道筋を様々な会議等を通して丁寧に説明し、子どもや職員、学校に関わる全ての人が、今以上の幸せ感を持つ学校にしていきたいと思っています。

最後になりますが、本年度は、十一月十六日の矢部まつりにて、本校児童生徒全員で「浮立」を公開します。子ども達が育てた椎茸の販売もあります。秘境の地「矢部村」で皆様のお越しを心からお待ちしています。

「誰もが心から愉しいと思える 学校づくりを目指して」

田川市立伊田小学校長　石井雄二

本校は、彦山川のせせらぎと香春岳の雄大な景色に囲まれ、長い歴史を刻んできています。私は校長としてこの学校に赴任するにあたり、「誰もが心から愉しいと思える学校づくり」を目指して、教育活動を推進しようと決意しました。

そのために、まず取り組んだのが、職員にとっても児童にとっても分かりやすく、目指し甲斐のある児童像の設定です。そこで、目を付けたのが戦後から受け継がれてきた本校の「校訓」です。これまで本校が大切にしてきた価値観を受け継ぎながら、現在の児童の実態をふまえ、時代に即した形にアレンジしたのが「選べる子（自律）」「繋がる子（協同）」「尽くす子（奉仕）」という三つの児童像です（図参照）。

「選べる子」とは、日々の学びや生活の中で、自らの選択に責任を持ち、自律した行動をとる子どもです。授業場面においては、自己選択できる学習活動の意図的な位置付けが期待できます。「繋がる子」は、仲間を思いやり、協力し合いながら成長する子どもです。授業や地域行

事において、人と関わる力を高め、互いに支え合いながら協働で学びを深める活動の位置付けが期待できます。そして「尽くす子」は、周囲への感謝の気持ちを持ち、他者のために行動できる子どもです。地域や学校の仲間とともに活動しながら、奉仕の精神や愛校心、郷土愛を育むことが期待できます。

この三つの児童像が、児童・教職員・保護者・地域の方々と、しっかりと共有できるよう、職員室や各教室への掲示はもちろん、学校通信やＰＴＡ総会での啓発、毎月のめあてへの位置付けなどを行っています。また、児童には、年度初めの始業式でも紹介しました。その後、「校長先生、わたし、三つの児童像が言えます！」と、元気に私に話しかけてくれる児童や、「目指す児童像をふまえた学級目標にしよう、という意見が子どもから出ました」という学級担任の声などが聞かれました。

さらに、教職員が、この児童像の具現化に向けて心がけるべき姿を明確にするため、年度初めに、職員一人一人に「どんな教師になりたいか」を考えてもらいました。集めた意見をもとに設定したのが「①信じて見守る教師」「②よさを引き出せる教師」「③寄り添える教師」の三つの目指す伊田小の教師像です。この教師像は、目指す児童像と関連するよう作成したので、絵に描いた餅にならず、教職員と話す際によく用いることができています。

【伊田小の教育ビジョン】

目指す児童像の共有と目指す教師像の設定を契機として、伊田小学校に関わる全ての方々が、同じ方向を向き、協働でよりよい学校文化を醸成することで、「誰もが心から愉しいと思える学校」が実現できると信じ、これからも学校経営に全力を注いでまいります。

温かさに包まれる学校づくりのために

遠賀町立広渡小学校長　**木　谷　公　祐**

ゆったりと雄大に流れる一級河川、遠賀川。川の流れに寄り添うように広渡小学校の学び舎はあります。本校は児童数二百七十八名、学級数は十五学級の中規模校です。昭和五十二年に開校し、来年度、創立五十周年を迎えます。本年度、遠賀町立広渡小学校の校長職を拝命いたしました。前校長先生の学校経営をしっかり受け継ぎ、広渡小の伝統文化を継承しつつ、少しずつではありますが自分なりの学校経営ができるよう日々模索しているところです。

始業式の校長挨拶の折、全校児童及び教職員に、一年間大切にしたい言葉として「温」という字を紹介しました。「温」には四つの意味があります。①あたたかい ②おだやかで心が優しい ③大切にする ④おさらいをする 復習をする です。児童及び教職員全員の力で、広渡小学校を温かい雰囲気に包まれた学校にしたいこと、そしてその温もりを地域にも広げたいことを伝えました。そのためには、おだやかな心で人と接し、出会う人のことを心から大切に思うこと。そして、自分の接し方や関わり方を自分なりに何度も振り返り、よりよくしていくことが大切であることを話しました。このことは、子ども同士の関わり方だけでなく、教職員間や保護者等との関係づくりにもつながることだと考えます。校長挨拶を終えると、子どもたちから温かい拍手をもらいました。

私自身、校長として次の二つの心構えを大切にしながら学校経営に取り組む所存です。

一つは、いつも明るく上機嫌でいること。不機嫌は伝染します。校長が不機嫌だと、教頭にも伝染します。そして、職員室の雰囲気は悪くなり、教室にも悪影響を与えます。近年、ウエルビーイングな学校づくりや働き方改革の推進が求められています。これらは、子どもたちが学びやすい温かい環境や教職員が働きやすい雰囲気が根幹にあってこそだと思います。多様化、複雑化する教育課題に前向きに取り組むためには、教職員が笑顔でポジティブであること。そのためにも、いつも明るい校長、上機嫌の校長でありたいです。

二つは、ナイスであるためにはクールであれ

【来年度創立 50 周年を迎える広渡小の校舎】

ということです。「To be nice, to be cool」という言葉があります。リーダーとして、ただ優しくするだけではなく、時には厳しい判断や指摘をすることが必要。だからリーダーは辛いということです。必要な指摘や指導をせずに、事なかれ主義で終わらせることは、人に優しいのではなく、自分に優しくしているのかもしれません。自分が辛くない道を選ぶのではなく、みんなのために自分が辛い道を選べるリーダーでありたいです。

この二つの心構えは相反することのように見えますが、子ども一人一人、教職員一人一人の将来を真摯に思い願うのであれば、二つの心構えをもった学校経営が必要であると私は思います。行きたい学校、通わせたい学校、働きたい学校になるよう、教職員一同、温かい心で力を合わせ子どもたちのために誠心誠意取り組んでいきます。

地域とともに育む 思いやりあふれる学校づくり

豊前市立千東小学校長　**久恒政子**

「おはようございます！」

朝の通学路には、今日も子どもたちの元気な声が響きます。その声に、地域の方々が笑顔で応えてくださる――そんな心あたたまる光景が、毎朝、千東小学校のまわりで見られます。

私は本年度四月に、新任校長として千東小学校に赴任いたしました。着任当初から、「地域とともにある学校」としての土壌を受け継ぎながら、子どもたち一人一人が自ら学び、人とのつながりの中で豊かに成長していけるよう、学校経営に取り組んでいます。

本年度、学校教育目標の重点として掲げたのが「ち・づ・か」です。

ち　チャレンジして自ら主体的に学ぶ子ども

づ　続ける力をもち、規則正しい生活をする子ども

か　考えて行動する、思いやりのある子ども

この児童像の実現に向けて、私は着任直後から、学校全体で共有できる具体的な「行動目標」として「千東小四つの頑張り目標」――「気持ちのよいあいさつ」「時間を守る」「わかりやすい発表」「思いやり」――を設定し、子どもたちが生活や学習の中で実践できるよう取り組んできました。

また、すべての子どもが「自分は大切にされている」「自分の存在が認められている」と実感できる学校づくりを進めるために、教職員全体に対し、「意識・行動・結果・存在」の四つの側面から、子どもたちに積極的に承認の声かけを行うよう働きかけてきました。これにより、子どもたちの自己存在感を高め、他者と共感し合える人間関係づくりを支援しています。

千東小学校の教育活動は、何よりも地域の力に支えられています。私は着任後、積極的に地域行事や協議会に参加し、地域の皆様との連携を深めてまいりました。校区内では、公民館やまちづくり協議会、青少年育成会議などを中心に、陶芸教室、川遊び、餅つき大会、しめ縄づくりといった地域ならではの体験活動が数多く行われています。こうした行事に子どもたちが参加することで、郷土への愛着や豊かな人間関係が自然と育まれています。

さらに学校では、地域の方々が「学びの先生」として、野菜づくり、昔遊び、書道などを子どもたちに教えてくださっています。私は、この「地域の知恵や文化を学校教育に取り入れる姿勢」を今後も大切にし、より一層の連携強化を進めていきたいと考えています。

また、子どもたちの登下校を見守ってくださる「ちづか見守り隊」の皆様が、「緑の見守りジャケット」を着てあたたかく声をかけてくださることは、子どもたちに安心感を与えるとともに、人とのつながりの大切さを自然に教えてくれています。

このように、私は「思いやり いっぱい いっぱい ちづか アップ」を合言葉に、子どもたちの豊かな人間性を育む学校づくりを進めてまいりました。今後も、学校・家庭・地域が三位一体となり、それぞれの役割を生かしながら、一人一人の子どもを育てていくことを目指します。そして、子どもたちが「千東が大好き、豊前が大好き」と胸を張って笑顔で通える学校となるよう、教職員一丸となって力を尽くしてまいります。

「千東小４つのがんばり目標」と合い言葉の「ちづか　アップ」を示した掲示物。各教室や廊下の掲示板等に掲示し，学校全体で共有している。